

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400523		
法人名	特定非営利活動法人 ウェルネットぎふ		
事業所名	ロングステイホームぬくもり		
所在地	羽島市竹鼻町新町2504番地1		
自己評価作成日	平成21年11月23日	評価結果市町村受理日	平成22年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=2170400523&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒5016232 岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内		
訪問調査日	平成21年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・当法人は福祉社会の実現(ノーマライゼーション)を目指しており障害者も雇用しています。 ・季節感のある行事を毎月提供しています。 ・家族や関係機関との連携に努めています。 ・朝の体操や機能訓練を毎日施行してADLの低下防止に努めています。 ・滞在が長期になり寝たきりになっても経口摂取ができる限り当事業所でお世話しています。 ・近隣の畑を借用し野菜等を栽培して料理に使用しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は利用者が心地よく過ごせるホームを目指しながら、職員の働きやすい職場作りにも常に心掛けています。月に一度、1階のデイサービスのフロアを利用して、「ミニ運動会」を開催し、玉入れや洗濯ばさみ取り競争などを行い、楽しみながらの機能訓練に繋げている。又、近隣の畑を借りて「ぬくもりのうえん」と名前を付け、みんなで野菜やお花作りをし、収穫をしたその野菜を使った調理等、楽しみの機会を作り、利用者の意欲向上に努めている。既成の建物を改築してグループホームにした為、少し日当たりが悪いが、昼間は極力日光浴が出来るような取り組みをしている。海外からの職員や障がいのあられる人も分け隔てなく明るく、気持ちよく働けるような、開けた事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については、定例会議の場において共有して実践につなげている。	「時間を大切に！思いやりの心をもって！家族の絆を大切に」の理念を定期的に職員間で確認している。職員試験を行い、理念の他にも遊び感覚を取り入れた問題の中から、介護の心について学びあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間の主な行事(消防訓練、側溝掃除や夏祭りなど)には、参加の呼びかけをしています。また、日常的に挨拶運動をしています。	自治会に加入し、回覧板などを利用してホームの行事を地域へ知らせ、ホームの駐車場でお祭りには、近隣住民の参加もある。ゴミの集積場や夏休みのラジオ体操の場所を提供して、地域に溶け込む努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	街燈を設置して地域の防犯に勤める一方、ゴミ等の収集場所として駐車場の一角を提供している。また地域住民の休息の場としてベンチを設置している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、サービスの質の向上に活かしている。	民生委員、高齢福祉課の職員、区長、家族参加の元に2ヶ月に一度開催している。会議ではホーム側からの現状報告、改善すべき課題を提案し、話し合いを行い、地域の理解と支援を得る為に大切な機会と捉えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	週に2～3回は高齢福祉課や福祉課を訪問し連携を密にしている。	頻りに市町村担当者と会い、事業所の実情や、地域の方の声を伝えている。高齢福祉課からの依頼を受け入れ、日頃から信頼・協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、施設内でマニュアルに基づいて研修をしております。また身体拘束が必要な場合、家族の同意を得て経過観察をしています。	管理者や職員は身体拘束の意味を十分理解しているが、やむおえず行う場合は、職員間で充分話し合い、家族の了解の下行っている。デイサービスと併設のため、玄関に施錠はなく、開放的である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について講習を受けた職員が講師となり、虐待防止に努めています。現に虐待があった事例については関係機関に報告しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する理解を深めるために施設内研修を実施しています。また必要に応じて当法人の会員である司法書士等に相談できる仕組みになっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ねて理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の第1回は必ず家族会とし意見を収集して運営に反映させています。また、意見箱を設置しています。	家族会を結成し、意見の出してもらいやすい雰囲気作りを行っている。出された意見は速やかに検討して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年2回職員に対して個別懇談を実施しており、職員の意見の汲み取りをしています。意見は毎週定例会議でも汲み取るシステムができています。	職員各自で「気付きノート」を作り、ケアだけでなく、普段言えないことなどを記入し、管理者との意思疎通に繋げている。年2回の個別懇談で、毎回個人目標を作り、成果を話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々が向上心を持って働けるよう常に意見を求めている。また、非常勤職員でも夏季冬季の賞与を支給しており、業務に差し支えない限り有給休暇も取得できる仕組みになっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会を捉えて職員一人ひとりの力量の向上に勤める一方、介護福祉士や看護師の資格取得に協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム(GHササダ)と交流しサービスの質の向上に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族とは初回面談でニーズ、背景、要望を聞き取り、定例会議の場で情報を共有して、本人や家族の安心確保に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族とは初回面談でニーズ、背景、要望を聞き取り、定例会議の場で情報を共有して、本人や家族の安心確保に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応としては、急激な変化(居場所)をさけるために、まずデイサービス等の利用を進め馴染みの関係が構築できるよう助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要介護の軽い利用者については、生活の中で職員と共に協働できることを模索して「職員と入居者」との良好な関係を構築できるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当法人の運営理念にうたってあるように、家族の絆を大切にしながら、共に生活できるように職員や家族に説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人等との面会はノートに記載されておりたまにあります。また、近所の寺院等の馴染みの場所に散歩に行くことが頻繁にあります。	昔から通いなれた神社に参拝したり、近所の八百屋さんに行き、なじみの関係の継続に努めている。「ぬくもり畑」での土いじりしながら、地元の人との繋がりも大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く暮らすことができるよう、入居者の生活病状を把握して部屋やテーブルの配置に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、当法人の会員になって情報交換しているご家族もおいでです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの過去の歴史を顧みて思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めており、定例会議の場で情報を共有しています。	入所時のアセスメントや日々のケアの中から、本人の思いや意向を把握し、利用者の希望が叶う選択肢を提示し、一人ひとりに添う支援が行われている。週一回の定例会議で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの過去の歴史を顧みて思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやカンファレンスの場において利用者の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の課題の把握に努めるかわら、月1回の支払日に家族との意見交換をしながら、必要に応じて介護計画を見直しています。	職員の意見は週1回のカンファレンス、家族の意見は月1回の支払日に聞いている。ケアマネージャーがモニタリングを行い、介護計画に生かしている。	利用者の視点で職員全員が柔軟に対応できる介護計画の作成とモニタリングシートの見やすい書類作りを検討されることを望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の個別記録を作成し、週1回のカンファレンスの場において情報の共有や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに対応するために当法人の移送サービス等の機能も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の竹鼻別院や曹洞宗本覚寺を散策したり、八百屋等の品そろえを見学しながら四季折々の彩を楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重して定期受診を受けており、常に主治医とは連絡がとれるようになっています。	基本的にはかかりつけ医による隔週の往診となっている。利用者・家族の意向を尊重した支援もされ、受信結果は診療記録に記入し共有している。薬の個別処方箋も一覧表に集められ誰が見ても一目で解るようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の朝礼や週1回のミーティングの場において介護・看護職員との協働作業のなかで適切な受診や看護を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関(松原医院)や羽島市民病院とは患者情報を共有し、GH入居者の入退院や病院入院患者のGHへの受け入れに連携を保っています。平成21年10月に病院からの患者の受け入れに対して満床でしたので他のGHを紹介しました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では、経口摂取ができなくなるまで介護する旨を入居時に説明していますが、今のところ終末期は病院を希望される家族がほとんどです。	契約書に看取りの指針が明記され、終末ケアについての説明も行われ、利用者・家族の意向に添う支援がされている。ホームで看取った経験から、家族立ちあいの場合にかぎり終末ケアに向けて取り組む対応となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回羽島消防署の協力を得て救急救命講習を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間での火災通報及び避難訓練を定期的に行っています。消化訓練等で地域との合同訓練を再三提案しておりますが、高齢化地域であるゆえに反応は乏しいです。	総合避難訓練は年2回、夜間訓練は3回と昼夜を問わず積極的な災害対策が取られ、消防署との連携も出来ている。近隣住民の参加要請は、区長を通じ提案をしている。	災害対策は十分に取られているが、備蓄についてはホーム独自に必要な物を検討の上、備えられる事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への呼びかけは「ちゃん」でなく「〇〇さん」と呼称したり、たしなめる場合は他の入居者にわからないように小声でたしなめています。	個々の人格を尊重し、声かけもプライバシーを損なわないよう細かい配慮のある支援がされている。トイレ誘導もさりげなく行われ、食後の歯磨きもタイミングよく対応している。日常気が付いたことは、会議の場で確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	嗜好調査を実施して料理に反映しており、本人の思いや希望を実現するように努力していますが、要介護1程度の利用者であれば可能ですが、人間の欲求は無限であって難しいことです。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活という枠をはみ出さない範囲で、ADLを低下させないよう努力していますが、一人一人の希望にそった利用者個々の生活を実現することは現実には難しいです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、職員が身だしなみを助言していますが、おしゃれは費用がかかりますので、ご家族の理解を得るには難しいです。本人が昔慣れ親しんだ物品等の持ち込みもお願いしておりますが実現されていません。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの嗜好調査を実施して食事に反映しています。土日は利用者と職員と一緒に新聞たみや食前のテーブル拭きや片付けをしています。おできになる方はわずかです。	職員は利用者の嗜好調査をし、バラエティーに富んだ食事を提供する努力をしている。ぬくもり農園で作られた野菜を使い、皆で鍋料理を囲んだり、浅漬けを作ったりと楽しみながらの支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事摂取量や水分量を毎日把握し健康管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、食後(3回)には必ず口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助してでもトイレに行くことができる利用者に対しては、常にトイレに誘導しています。また、トイレまで行くことができない方に対してはベッドサイドにトイレを設置して自立支援をしています。	日々の排泄記録から、個々のパターンを把握し、誘導や声かけを行っている。利用者が出来ることは見守り、身体機能に応じポータブルトイレの人には自立に向けた支援となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の解消には機能訓練や繊維質の食事の提供に努めており、水分補給や食事量のチェックをして予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるよう月ごとに「〇〇湯」を提供して変化のある入浴を楽しめるよう工夫しています。時間帯は施設のスケジュールに合わせて実施しています。	基本的に週3回の入浴であるが、その日の体調、気分で嫌がる利用者には日をあらためるなどの対応をしている。入浴が楽しいものになるよう季節によりゆず湯・しょうぶ湯等々ひと工夫し、ゆっくり安心して入浴出来る支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	カンファレンスの場において職員が協議して一人ひとりの体調に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるようベッド等を設置しています。また、必要に応じて畳も使用しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解できるよう試験を実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活を維持するために利用者の好みに応じた作業療法等を実施しています。また気分転換のために「ぬくもり農園」にお連れして作物の生育状況を観察しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって戸外へお連れするのは利用者のADLを考慮すると難しい面がありますが、天気の良い日は毎日暖かい午前中に駐車場にお連れして日光浴をしながら、運動機能の維持に努めています。	天気の良い日は日光浴、散歩は近くの神社に、又一ヶ月に一回は喫茶店へと、外出支援がされている。階下のデイサービスの人たちと交流があり、楽しい会話がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が施設内で金銭を所持するのは紛失の恐れがありますのでお断りしています。施設では月に1回程度喫茶店にお連れして金銭感覚の維持に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りをする際は、ご家族の理解を得ようになっていますが、ご家族の理解が得られません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は利用者にとって不快や混乱を招くことのないように配慮しています。壁面には季節感をかもし出すように作品等が掲示されています。	共用部分は広々とした空間で、大きな丸テーブルが置かれ、全員で集まれるスペースがある。一人でゆっくり過ごす場所の確保もされているが、利用者は日中階下のデイサービスで過ごしていることが多く、そこには横になるベッド等もあり、明るく季節感ある場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間において独りになれたり、気のあった同士が歓談できるようにテーブルを配置していますが時に応じて移動させ気分転換できるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族と歓談できるように十分なスペースを確保しています。使い慣れた物の持込をお願いしていますが、ほとんど持ち込みはありません。	利用者が使い慣れた物は少ないが、ホーム職員の暖かい気持ちで用意されたタンス等が、その人の使いやすい様にレイアウトされ、広い居室は家族が宿泊できるようにベッドも用意されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの能力を勘案して「できること」「わかること」を活かせるように努めています。具体的にはタオルたたみやテーブル拭き、新聞紙の整理などです。		